

## 興味関心を広げる、文化的・社会的な体験活動

### 取組の背景・目的

- 町田市では、市を旧5ヶ町村に区切り、各地域に子どもセンター（大型児童センター）を整備している。子どもセンターは、各地域の拠点的役割を担い、地域内の青少年健全育成を推進している。
- 町田市の子どものセンターは、公設公営の施設であり、市で策定している「子どもマスタープラン」に則り、「体験活動ができる場の充実」や「コミュニケーション能力をのばす」活動を行っている。
- 市内には、子どもセンターのほかに、子どもクラブ（児童センター）、冒険遊び場、放課後子ども教室まちともなど、様々な子どもの居場所が整備されているが、子どもセンターは、市内で大型児童館のような役割を担っており、研修やモデル事業などの実施を行っている。
- 市民の方より、「切手を使ったプログラムをしませんか」と申し出があり、検討をした結果、子どもの興味関心を引き出し、かつ文化的・社会的な体験活動に繋がると判断し、プログラム化を始める。毎月継続的に切手を使用したプログラムを行っているのは、日本で唯一、町田市だけである。

### 取組の概要

- 実施場所：町田市子どもセンターぱお
- 実施頻度：毎月第2土曜日 午後3時～5時
- 職員体制：職員1名＋ボランティア数名 ※ボランティアがない時もある
- 参加人数：2022年度全12回 171名の参加（平均14.2名）  
2023年度全12回 226名の参加（平均18.9名）  
2024年度12月までの計9回 180名の参加（平均20名）※継続中
- プログラム内容：（常設…毎回必ず行っているもの。その他は、様子を見て実施）

使用済みの切手を使ったプログラムとなっています。使用済みの切手や、資料として掲示されている写真などは、全国の切手収集家や個人からの寄付でまかなわれています。切手は、日本切手だけでも、記念切手やグリーティング切手、普通切手など5000種類以上の切手が発行されており、多くの人が自分の「好き」を見つけられる素材です。

- ① 資料展示（常設）
- ② スタンプカード（常設）
- ③ 切手関連プレゼント（常設）
- ④ 水はがし体験（常設）
- ⑤ 切手しおりづくり（常設）
- ⑥ ほしい切手の持ち帰り（常設）
- ⑦ 切手クイズ作り
- ⑧ My Favorite Stamp カード作り
- ⑨ 切手貼り（切り）絵



①写真家の方から提供いただいた丸形ポスト写真



④水はがし中の切手



⑤使用済み切手を使ったしおり



⑨切手を使用した貼り（切り）絵

## 工夫点・留意点

### • 「やってみよう」をくすぐる様々な「しかけ」を考え続けること

「切手」と聞いても、なかなか最初は興味を持ちづらいもの。色々な切り口で「面白そう」を引き出すしかけが大事。また、継続的に実施する中で、変化を持たせていくことも大事なため、新しい「しかけ」を考え続けることも大切。

### • 興味関心を広げるために継続性を持ち、定期的に関催をすること

興味を持って、次がなければそこで途切れてしまう。興味を持った人が継続的に参加できることで、新たな興味を持つきっかけとなり、興味関心を広げることになる。興味関心を広げ、自分の「好き」を見つけることで、自己理解へとつなげていく。

### • 知りたいに答えられる予備知識と素材研究

興味関心が広がると、より「知りたい!」と思うもの。そう思った時が、「まなび」の時。知りたいに“答える”のではなく“応える”ためには、素材研究と予備知識は欠かすことはできない。



## 取組の効果

- 「ほしい切手は持って帰ってもいいよ」と伝えると、とりあえず持って帰る人や厳選して持って帰る人など様々な反応を見せる。とりあえず持って帰っていた人も、だんだんと自分の好みを見つけ、「こういうのが欲しい」と言うようになる。多種多様な素材だからこそ、自分の「好き」を見つけ、自己理解につながっている。
- 親子や友人同士、その場でただ一緒になった人同士でも、活動を通してお互いに「あったよ」と切手を探してあげ、お互いの作品を見せ合い、影響しあって興味が広がる。素材の幅広さがコミュニケーションを活発にし、相互理解を促進している。
- 「切手って知ってる?」小学5年生に問いかけた質問に、「知ってるよ! 電車に乗るやつでしょ!」と答えが返ってきた。その子は、その後も通ってきて、手紙についての知識も深めていった。近年、家に届く手紙はほぼDMで、切手を見る機会が減った。友達同士で手紙を出すこともなくなり、手紙文化に触れずに育つ子どもたちが増えている。活動を通して、「今度は一ぱに手紙を書いてみよう」と言う子もいる。興味関心を広げる素材としての切手だが、そこから文化的・社会的な体験活動へとつながっている。

## 課題・今後の展開

- 大人でも切手にはどんな種類があって、どういう歴史があるのかを知る機会が少ない。素材の幅広さから、特定の職員だからできることと思われてしまうことも。担当職員に頼らない継続性を持たせるためには、地域人材の発掘及び活用、育成が課題となる。
- 切手を素材とした体験活動を継続的に行うことは、全国的にも珍しい取り組みとなっている。これまで述べた通り、多種多様な切手は児童館で行う体験活動の素材として、適した素材の一つと考える。この取り組みを横展開できるならば、互いの児童館で文通など、文化的な取り組みにもつながるのではないかと期待する。



194-0211

# き 切っても切れない♪



対象：どなたでも  
※施設は0～18歳が対象です。  
※見学も可能です！  
協力：個人ボランティア  
※切手にまつわるボランティア募集中！

# き っ て あ っ 切手集め♪ in ぱお



切っても切れない切手集めでは、使用済みの切手を台紙から「水はがし」して切手を収集します。切手には普通切手や記念切手、ご当地切手など様々な種類があり、子ども達の興味・関心を広げる一助となっております。例えば、切手の値段が上がる事によって増税があったことが分かったり、どこの県にはどのようなお城があるかなど、1人ひとり目の付け所が変わります。それを一緒に行うことで、新たな視点、新たな興味・関心を引き出します。

## 切手の寄付をお待ちしております！

普通切手・記念切手・グリーティング切手(キャラ切手)・年賀切手・外国切手など古いものから新しいものまで、使用済み切手であればどんなものでも募集しています！ご質問は下記問い合わせ先までご連絡くださ



←ご寄付いただける際は、左図のように切手の周りを余らせるように封筒などを切り取り、お持ちいただくか、郵送で送付いただくと助かります。尚、切り取りが難しい場合はそのままお持ちいただければこちらで裁断後、切手以外の部分はシュレッダーで処分いたします。

お問い合わせ：子どもセンターぱお岡本 (042-775-5258)